

臨床薬理センター

1. スタッフ（平成28年4月1日現在）

センター長（兼）（教授） 藤村 昭夫
 室長（講師） 牛島健太郎
 医員（兼）（准教授） 相澤 健一
 （兼）（准教授） 星出 聡

2. 臨床薬理センターの特徴

臨床薬理センター薬物治療支援室は、平成13年4月から専任医員1名および兼任医員3名（医学部薬理学講座臨床薬理学部門および内科学講座循環器内科学部門）で活動を開始し、臨床薬理学的知識に基づいた適正な薬物療法について、臨床各科からのコンサルテーションを受け、これに対し助言を与えている。主な内容は以下のものである。

- 1) 臓器移植後の免疫抑制薬に関する治療薬物モニタリング（TDM）
- 2) 妊婦・授乳婦に対する薬物情報の提供（主に産婦人科・精神科）
- 3) 薬を用いた臨床研究計画申請書の事前審査
- 4) 治験申請案件の事前審査

・施設認定

日本臨床薬理学会認定医制度研修施設

・認定医

日本臨床薬理学会指導医	藤村 昭夫
日本臨床薬理学会認定医	藤村 昭夫
日本内科学会総合内科専門医	星出 聡
日本内科学会指導医	藤村 昭夫
日本高血圧学会指導医	藤村 昭夫
日本循環器学会専門医	星出 聡

3. 実績・クリニカルインディケーター

- 1) 臓器移植後の免疫抑制薬に関するTDM
 生体肝移植患者に対する免疫抑制薬のTDMコンサルテーションを行った。
 36症例 379件
- 2) 妊婦・授乳婦に対する薬物情報の提供（産婦人科・精神科）
 産婦人科および精神科からの妊産婦・授乳婦への薬物療法に関するコンサルテーションに対し助言を与えた。
 52症例 95薬
- 3) 薬を用いた臨床研究計画申請書の事前審査
 大学疫学研究倫理審査委員会申請書のうち、薬に関する臨床研究申請書の事前審査を行った。

申請書数：127件

4) 治験申請案件の事前審査

本院で行われる治験のヒアリングに参加し、臨床薬理学的立場から治験依頼者に対する質問等を行った。

プロトコール数：21件

4. 事業計画・来年の目標等

ひき続き、院内の薬物療法適正化のために適切な助言を与える。